



学校だより

11月号

～豊かで調和のとれた子の育成～

たくましく生きる人 なかよく生きる人

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tana/>
150周年キャラクター
もちTaNaくん

切実さから生まれる

副校長 井上和浩

たびたび学校だよりでも話題にのぼりますが、第2校舎につながる渡り廊下から見える富士山が雪化粧をしました。



(第1校舎からのぞむ丹沢連峰 その向こうには富士山も)

さて、ある知り合いの方との雑談でこんな話を聞きました。

その人は、小柄で毎回給食を残さずに食べることができなかったそうです。

コッペパンが出た時は、まわりをむしって食べ、中の白い柔らかいところは手でギュッと押し縮めてポケットに入れて持ち帰っていたそうです。一度も友達にも先生にも気づかれなかったと言っておられました。「大変な苦勞でしたね。」と話す時、笑っていらっしかったです。

想像するに当時、かなり真剣で必死だったことと思います。自分でなんとかできる方法を考え出して、行動に移したのでしょう。

このエピソードからふと考えました。少し飛躍しているかもしれませんが、「今は大人が先回りして子どもの考える機会をうばってしまっているのではないか。」

現在の給食は、配膳の段階で本人が多め少なめを給食当番に伝えられます。もし、食べきれなくて残してしまっても大丈夫です。

その方の話にはまだ続きありまして、なぜそこまでしていたかという、食べ終えるまでは、教室に残されたそうです。休み時間に遊ばないのは、何よりつらいことだったと。

この点も今はもちろんありませんので、どうぞご安心ください。

いよいよ150周年式典が11日に、子どもたちは18日に田奈のみり記念セレモニーがそれぞれおこなわれます。今までご準備いただいた関係者の皆様に心からお礼申し上げます。どちらも心に残るすばらしい会になることでしょう。

今月もどうぞよろしく
お願いいたします。

(さまざまな取り組み)

